



ヨゼフ アベイヤ 司教 認可  
発行所 福岡教区本部  
福岡市中央区浄水通6-28  
発行人  
カトリック福岡教区  
編集人 山元 眞  
TEL 092-522-4059  
FAX 092-523-2152  
振替口座 01760-6-20729  
カトリック福岡教区  
定価 1部70円

10月の意向

【教皇の意向】使命を担い合う  
【日本の教会】シノドス  
教皇の意向のために祈りましょう

2024年10月20日 世界宣教の日にあたって  
「田なやう」「招きなやう」  
福岡教区長 ヨゼフ・アベイヤ司教



画；MINO CEREZO 神父

キリストの食卓に  
人々を招く

全世界の教会にとって10月は福音宣教の月になっていきます。イエスに委ねられた使命を再認識しながら、それに応える決意を新たにするとともに、教皇フランシスコは毎年、その日のためのメッセージ

ジを発表されます。「出て、だれでも婚宴に連れてきなさい(マタイ22・9)」と伝えられていることを土台にしたメッセージです。この聖句は「神の国にすべての人々が招かれている宴会」に例えるイエスのことばです。

教皇のメッセージを読んだときにすぐ思い出したのは、1984年に発表された日本の司教団の基本方針です。「私たちカトリック教会は、宣教師として、まだキリストの食卓を囲んでいない人々に信仰のよるこびを伝え、より多くの人々を洗礼に導き、彼らと共に救いのみわざの協力者となる」と表現されていました。「キリストの食卓をともに囲む」とはとても美しいイメージです。上下関係がありません。中心はキリスト、ともにいるのは兄弟姉妹です。ここで、私は一人ひとりに質問をしたいと思います。あなたは、だれを招きたいですか。そのために何をしていますか。

現在、福岡教区では別の形で教区の活動がまとめられています。教区や各地区の歩みは、信徒、修道者、司祭、司教によって構成されている宣教師司牧評議会と五つの委員会やそれぞれの部門によって支えられるようになってきました。特に、教区や各地区の委員会に積極的に加わるように信徒に呼びかけたいと思います。小教区から地区へ、地区から教区へ、また、教区から地区や小教区への流れを大事

訃報  
ヨゼフ 浦俊雄 神父 (福岡教区司祭)

2024年7月28日(日)、誤嚥性肺炎のため、聖マリア病院(福岡県久留米市)にて帰天。享年92。司祭生活61年。



【略歴】  
1932年5月22日 長崎県五島に生まれる。  
1963年3月24日 司祭叙階  
1963年4月 大名町教会・小倉教会・久留米教会で助任を歴任  
1974年2月 小郡教会主任  
1975年4月 小倉教会助任、湯川教会・戸畑教会・行橋教会の主任として、主に北九州地区の司牧に尽力  
2005年3月 本渡教会主任  
2009年4月 馬渡島教会主任  
2016年2月 司教館付き  
2024年7月28日 帰天  
浦神父様の永遠の安息をお祈りください。  
※2面下に関連記事

—お詫びと訂正— 教区報8月号3面  
「知りたい!福岡教区の修道会・宣教会」  
× 神言会 宮崎保志神父  
○ 神言会 宮崎保司神父  
謹んでお詫び申し上げ訂正いたします。



伝統楽器(サムノリル)を奏でる生徒たち

カトリック平和旬間賛同企画  
福岡教区主催「平和を祈る集い」

8月12日(月・振休)、カトリック大名町教会において「平和を祈る集い」が開催され、1日を通して延べ430人が集った。テーマは「明日からできる平和を考える」平和を実現する人は幸いである。午前の部は、朝鮮学校の生徒による伝統舞踊、死刑問題と人権・コスタリカの環境対策・南西諸島など日本をとりまく軍拡から考える平和について、分科会、そして小中高の子どもたちが共に平和を考える分科会が行われた。朝鮮学校の生徒たちの、日本で朝鮮人として生きていく中で根

う場に送られて、高山神父は当初、自分でいいのか、この思いを抱いていたそうです。しかし、交わりの体験を通じて、自分はここにいていい、自分がいることに意味があるという思いに変えられていった、そう語っていました。2021年から行われているシノドスの会議は、一人ひとりの声を聞く分科会、霊に導かれて祈るうちに、発言を聞き合うことに重点が置かれます。各人が準備の祈りと黙想をして、その実りを持ち寄るのが分科会の一週目。沈黙の後、聞いたことかから受け取った実りを二週目の分科会に差し出します。

最後に、聖霊がグループを導いていると感じた気づきを三週目で振り返り共有します。大阪高松大司教区の集いでは、実際にこの「会話を」を行い、「ともに歩む」は頭で考えることではなく体験するものと実感しました。三週目で参加者の顔がみな明るくなっていたことは、聖霊が働いた証にほかなりません。「見よ、兄弟が共に座っている。なんといい恵み、なんといい喜び」(詩篇133・1)「シノドスハンドブック」をぜひご覧ください。教区HPからダウンロードできます。西新教会 安藤智子



祈りを家族で考える尾松さん

人生のいろいろな場面で「今の時間は無駄ではないかな」と感じる時がある。単にこの1時間、今日丸一日、もしくはもっと長く考えてみて、この何年間がまるまる私には無意味な時間だったと思えた時があるかもしれない。その時間に何をしたらいいのか、果たしてそれが全く無意味な時間にならなかつたのか。長崎のイエスのみ心の女子修道会にはこのような言葉があります。「みむね(旨)たい」。振り返れば、全てが神の導きの中だったことを感じ、告白する言葉です。良いときであり、悪いときであり、全て神様の導きがそこで働くということ。例えば、自分と相手の良くない人と一緒に過ごす「とき」が訪れたと考えると、その時間は、自分には何も得ることがない残念な「とき」と思ってしまう。でも、自分と違う考え方に気付かされた「とき」と思える「とき」になるかもしれない。その「とき」は、コップの中に水が半分なのを見て「半分しかない」と嘆くか、「まだ半分もある」と喜ぶかということと同じなのではないでしょうか。神様は善人にも悪人にも同じく雨を降らせる公平な方です。私たちはその神様と同じ「とき」をいただいています。その「とき」に良いものを導き出せるか、もしくは嘆くだけ終わるのかは自分自身にかかっています。(J)



時の話題

シノドス--ともに歩む

先日、大阪高松大司教区で行われたシノドスの集いに参加しました。講師は、大陸別シノドスや教区司祭のシノドスに参加した高山 徹神父です。シノドスとはギリシア語で「ともに歩む」という意味ですが、講演のタイトルは意外にも「一人ひとりの存在と働き」。個々人が固有の存在でいてこそ「ともに」だと強調されていました。各国の代表者の会議とい



みむね

各地区の平和行事

今年もカトリック平和旬間には、各地で平和について考えるひとときが持たれ、気持ちも新たに平和への祈りが捧げられた。(全文や動画・写真は下記QRコードからご覧いただけます)



「宣教司牧方針を受けて」は、今号は休載いたします。

福岡地区

福岡地区信徒使徒職協議会

「平和を祈る集い」の当日の運営手伝いを担い、小学生以下を対象とした分科会を光丘教会・教会学校が担当した。また、事前に応募が呼びかけられた、平和をテーマにした俳句・短歌・川柳・絵や主張に、大名町教会・笹丘教会・高宮教会・西新教会・光丘教会・老司教会が作品を寄せた。報告||濱崎公夫(信徒協会長)

糸島教会

8月4日(日)、本年度は9月に「恵楓園」(武蔵ヶ丘教会・巡回教会)を訪問することになっているために、「ハルセン」病問題について考えよう」をテーマにDVD『ハルセン病問題を知る』元患者と家族の思いを鑑賞し分かち合いを行った。「戦争・平和」という設定ではなかったが、怒りや偏見を乗り越えるには相手を正しく知ることがその第一歩だということをお互に分かち合うことができたと思う。今回の巡礼がより意味のあるものになることを願っている。

報告||浦越 義人

北九州地区

北九州地区宣教司牧評議会

8月12日(月・振替)、小倉教会での第3回聖書講座(全4回)聖書から見る平和の開催に合わせ、子どもたちも参加して、平和についての考えをメッセージにまとめて発信することにした。

各教会から18人の子どもたちが集まり、最初に安藤智子さん(西新教会)と一緒に平



考えた平和を絵にまとめる子どもたち

和の歌を歌い、レナト・フイリビーニ神父(聖ザベリオ宣教会)が平和の象徴、鳩とオリーブ、虹の架け橋の話をした。徐仁徳神父(戸畑・若松教会主任)は車座になって「平和ってなんだ?」と子どもたちと掛け合いを行い、子どもたちの元気な返事が会場に響きわたった。谷口尚志神父(水巻・直方教会主任)からは聖書の中の平和の言葉について話があった。その後、子どもたちはグループに分かれ模造紙に向かったが、リーダーの子どもから「みんなまで一つの絵にしよう」という声が上がった。それぞれテーマを決め、神父たちが示した聖書の言葉のメモを見ながら作業に入った。「ここはこうしよう」「ここしたら」と楽しく作業は進み、平和の鳩、虹の架け橋、世界の人が平和の心で手をつなぐなど、僅か40分ほどで素晴らしい平和のメッセージとなる絵ができあがった。

聖書講座参加者のみならず、ベトナム、マレーシア、韓国の方々からも母国語で事前に書いてもらったメッセージが60枚集まり、国際色豊かな作品の数々となった。報告||丸田宏幸(田川教会)

筑後地区

久留米教会

宮崎主任司祭からピース9担当者へ、平和旬間に皆が平和について考える機会をつくりたいかと提案があり、8月11日(日)9時のミサ後に平和上映会を行った。

係からの初めの挨拶でカトリック平和旬間の意義について簡単に説明があり、中村哲医師のパキスタンやアフガニスタンでの35年間の活動を記録した『荒野に希望の灯をともす』を鑑賞した。

映像の中の中村医師は「本当の平和とは何か」と観ている私たちにずっと問いかける。「平和とは人間同士だけの問題でなく自然との関わり方に深く依拠している」「私たちにあって平和とは理念ではなく現実の力なのだ」「暴に対して暴をもって報いるは我々のやり方ではない。平和が日本の国是である」。中村医師が語る言葉の一つひとつが、彼の長年にわたる行動と生き方から自然と生まれたものと感じられて、私たち一人ひとりの心に深く響いた。報告||柴田良子

佐賀地区

唐津教会

8月4日(日)、唐津教会ではミサ後に約30人が集い、中学生による平和についての作文発表や、アフガニスタンなどで長年医療活動や水路造りに尽力された故・中村哲氏を紹介するアニメを視聴した後、歌と祈りをともにして平和について考える分かち合いの会を開催した。

参加者は食事とともにして

佐賀教会

7月28日(日)、「へいわつてなあと」と題して、大人も子どもも一緒に手形による「平和の木」タペストリー作りを行った。

これは、7月15日(海の日)に佐賀地区サマーキャンプで行う予定だったが、当日朝の大雨警報で中止の判断となったため、準備した人々の思いも合わせて佐賀教会で行えたことは大きな恵みとなった。

シスターによる絵本の読み聞かせから始まり、2メートル四方の布の真ん中に大きな幹と虹が描かれ、様々な色の手形で枝が作られた。大きな手形は羽を広げる鳩となり、地面を覆う緑の草、大小の葉っぱとなり、時間がたつのも忘れて取り組む人々の笑顔は最高だった。

約60人の参加者は、日本人をはじめフィリピン、ベトナム、ポーランド、ドイツから様々な国の人たちで、「平和の木」に平和への思いを込めたメッセージを貼り付けていった。私たちの平和への願いはこれから先も続く。

熊本地区

手取教会

8月10日(土)、熊本市の中心市街地に位置する教会として「今こそ平和を祈りましょう」と、街行く人に声をかけた。

マリア像前の広場では一般市民も引き込んだ平和へのメッセージ・俳句・短歌などを貼り付けた大型パネルを設置。聖堂内では祭壇に「平和」の電照文字を灯し、午後一時半、信徒会長の挨拶に続き、聖歌隊が聖歌を披露。続いて後藤素子さん率いるゴスペル

チームが祭壇前に並び米国の第二の国歌と言われるアメリカン・グレイスなど平和への祈りに相応しい歌曲を踊りながら披露した。次にフルート合奏とギター伴奏による祈りの語り、最後は弦楽四重奏。合間にはCDによるミサ曲を流しながらの途切れのない雰囲気の中、手取の信徒だけでなく通りかかった一般の方など最大時50〜80人が共に平和への祈りに参加した。

山鹿教会

90歳の男性信徒による「戦争の体験談」を皮切りに、平和に対する想いや平和と密接に関係する気候変動に対する取り組みなどを分かち合った。唯一の地上戦を経験し、今もなお過剰な基地負担に苦しむ沖縄の方々には思いを馳せた。絵本の朗読を通して、世代や国籍を越えて平和を希求するメッセージに共感した。

福岡司教区立幼稚園等研修会

「みんなの家(地球)を大切に」



学びと分かち合いの豊かなときを過ごす

1日目は他の園と情報交換しながらの分かち合いの時間を過ごし、2日目は自園の職員が集まり、より詳細に分かち合いました。環境の重要性は各園で子どもたちに伝えていくもの、さらに学んだことや伝え方についても意見を交換することができ、有意義な時間となりました。

カトリック福岡司教区立幼稚園等研修会が唐津で2日間わたって開催されました。テーマは「みんなの家(地球)を大切に」で、上智大学基礎教育センター教授の吉川まみ先生を講師に招き、地球環境の現状や危機について画像を交えて学びました。また、環境を保護するためには身近なところから始めることが大切であり、具体的なヒントも教

えていただきました。研修の最後は、アベイヤ司教様主司式のごミサに与り、研修会は終了しました。宗教学人立の姉妹園が集まり、研修や分かち合いの時間、おいしい食事を通じて交流を深めることもでき、充実した研修となりました。そしてこの研修会を通じて、環境保護の重要性を再確認しました。神に感謝。報告||若松天使園長

訃報 竹内 静雄氏 ヨハネ 竹内 静雄氏 竹内英次神父(崎津・大江本渡教会主任、長崎大司教区)のご尊父が、9月7日に帰天。享年91。ランシー・デソーザ氏 ジョンソン・デソーザ神父(大楠教会主任・美野島司教センター協力、カプテン・フランシスコ会)のご令兄。9月7日に帰天。享年58。福岡教区人事異動 ルカ全 爽訓師(聖ドミニコ会・箱崎教会協力)箱崎教会協力、小郡・鳥栖教会協力 ◆フランシスコ・ブリン師(聖ドミニコ会・箱崎教会協力)力、小郡・鳥栖教会協力 教区外へ

サンパウロ 福岡宣教センター 営業時間: 10:00~18:00 定休日: 日曜日・祝日 〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26 tel. 092-721-2032 / fax. 092-739-3930 E-mail: fukuoka@sanpaolo.or.jp

不動産全般/売買・賃貸・管理 何でもお問い合わせください (株)ジャパン・スマイルか 代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子 〒810-0044 福岡市中央区六本松4丁目9番4号 TEL 092-761-8800 http://www.iruka-japan.com/

総合建築業 ・一般住宅(新築・改築工事) ・鉄骨工事 ・RC工事 建築の事なら何でもお気軽にご相談ください 有限会社 森山工務店 ヨゼフ 森山新太郎 福岡市早良区四箇1丁目15番28号 ☎(092) 811-7265

別れ・出逢い・旅立ち 草苑 (SOU-EN) カトリックのご葬儀 互助会制度もご利用できます。 木下株式会社 TEL 092-526-5656 〒810-0016 福岡市中央区平和3丁目1-5

### 熊本地区 「子どもたちのサマーキャンプ」

熊本地区宣教司牧評議会主催の子どもたちのサマーキャンプは「ブルーアイランド天草」を拠点として2泊3日の日程で開催。テーマは「いのり」。勉強中の2人のベトナム人神学生を含め高校生までの子どもたち33人と応援者など合計58人が参加。櫻井尚明神父（手取・帯山教会主任）を総括責任者として、ワークショップ、バーベキュー、海岸での水遊びなど4つのプログラムに取り組んだ。特にワークショップでは3つのチームに分かれ、分断された祈りのフレーズを探中で競争心が仲間意識に変わり「主の祈り」を完成させることができた。最終日には崎津教会（竹内英次神父主任）で祈りのマイカードを奉納した。

初参加の子どもは「不安な気持ちもあったが、祈りは神さまと会話すること、和解すること、神さまと一緒に祈ること。自分を元気づけて、自信を与えてくれることに気がきました」（手取教会：梶原一仁・小学4年）と。調理支援班の配慮もあり「2日目の食事では、魚肉やシーフードの料理…（金曜日は）“小斎（しょうさい）”の日だと教えてくださいました。また、来年も楽しみ！」（笹丘教会：山田恵真・小学5年）など、祈りをテーマに取り組んだ子どもたちの思いは既に来年へとつながっていた。



報告＝手取教会 小野豊和

### 筑後地区 「サマーキャンプで深まる親睦」

7月27日（土）～28日（日）に、カトリック福岡教区筑後地区のサマーキャンプが北九州地区のカトリック新田原教会で開催されました。筑後地区の6教会から4人、新田原教会から11人の子どもたちが参加し、合計15人が一堂に会しました。



1泊2日のキャンプでは、初夏の清々しい天候の中、信徒会館内でのゲームや共同での食事、夜には打ち上げ花火や手持ち花火を楽しみました。特に、共同作品作りでは、愛苦会シスター直伝の手作りロザリオ作成に熱心に取り組み、完成した作品を互いに見せ合い、その出来栄を確認し合いました。また、御ミサや聖体訪問を通じて、田中重治神父様（小郡・鳥栖教会主任）や井手公平神父様（新田原教会主任）から教会の歴史や伝統について学び、信仰への理解を深める貴重な時間を持つことができました。

今回のサマーキャンプでは、各教会の子どもたちが交流を深め、親睦を図ることができ、今後の地区活動にとっても大変有意義なものとなりました。カノッサ修道女会、聖母訪問会、イエスのカリタス修道女会、カトリック愛苦会、福岡教区のベトナムからの神学生、新田原教会のスタッフ、筑後地区6教会の有志の皆様のご協力により無事に終えることができたことに心より感謝申し上げます。今後もこのような交流の機会を大切に、子どもたちの成長を支えていきたいと思っております。最後になりますが、田中神父様、井手神父様、2日間本当にお疲れさまでした。

報告＝今村教会 佐々木義雄

## 各地の夏の思い出

「知りたい！福岡教区内の修道会・宣教会」は、今号は休載いたします。

### 福岡地区・光丘教会 「平和の集いでもあるサマーキャンプ」

今年のサマーキャンプは、大人と子ども合わせて24人が、7月27～28日に、信徒会館で楽しいひと時を過ごしました。光丘教会学校が、教区主催の「平和を祈る集い」で、小学生を対象とした分科会を担当していたため、サマーキャンプのテーマも「戦争と平和～世界の子どもたちは今～」にし、平和について考えました。

まずは、ユニセフの動画視聴を通じて、シリア、スーダン、ガザ、ロヒンギャ難民等のお友だちの苦しみ寄り添い、その後、感じたことを互いに分かち合い、発表しました。そして、一人ひとりの思いを絵にして「平和を祈る集い」に応募しました。また、水遊び、そうめん流し、スイカ割り、かき氷、銭湯、花火等を通して互いの仲を深めました。夜には、紛争地域のお友だちを忘れず、皆が聖堂で黙想と祈りを捧げました。神様のもとで学び、遊び、祈るひと時でした。

今後、近隣の教会との交流を広げながら、沢山の子どもたちが仲良くなり、イエス様に親しんでほしいと願っています。



報告＝杣 淑眉

### 中高生キャンプ FYCC 「☆パン☆」 カトリック福岡地区青年会主催

8月10日（土）から12日（月・振休）まで、旧福岡カトリック神学院で「FYCC18」を行いました。中高生19人、スタッフ、食事等お手伝いいただいた方々を含め、約50人が集いました。今回のテーマは「パン」。当日の福音（ヨハネ6・48）からとり、「分かち合うこと」「満たされること」を大事にしました。人手不足やプログラムへの不安など様々な困難もありましたが、スタッフ一人ひとりが熱意を持って乗り越え、反省も含めて、中高生の笑顔という形で実を結べたと思っています。私は、FYCCを通して、イエス様が「なかま」を分かち合ってくださいと感謝しました。多くの方々の支えと、神様の大きな愛のうちに「FYCC18」が無事終わったことを心より感謝いたします。

スタッフ代表 大名町教会 荒牧結花

私は初めてFYCCに参加して、「とても良いイベントだったな」と家に帰ってから思い出に浸っていました。

初日は、夜に手持ち花火などをして初めての人も少し仲を深めることができました。夕方のレクリエーションも、とても楽しかったですし、何より夕飯が美味しかったです。2日目の朝には皆で外に出て、アンパンマン体操をして体をほぐしました。ちょっと恥ずかしいところもあってなかなか踊れなかったりしましたが、最後までいけました。愛情がこもった朝食もとても美味しかったです。特にだし巻きたまごが甘くもちもちして美味しかったことを覚えています。光の集いでは、みんなの良いところを書いたパンカードを交換しました。いざ自分の良いところが書かれたパンカードを貰うと恥ずかしかったのですが、普段めったに褒められることがなかったので、とても嬉しかったです。

FYCCを通して、思ったことを前に立って話すことは恥ずかしかったのですが、今回のFYCCは、私にとって非常に価値のあるものとなりました。普段は得ることのできない貴重な学びや気づきを数多く得られ、自己成長に大きく繋がったと感じています。新たな視点や考え方を取り入れることができました。参加者 新田原教会 大石真矢



## 第2回 教区司祭評議会 司祭減少と組織一体化への取り組み

7月23日（火）、大名町教会にて今年度第2回司祭評議会が行われた。会議に先立ち、福岡教区の2人のベトナム人神学生（ヨセフ・ヴォーグエン、グアン・ティン）が紹介された。2人はベトナムの大神学院の哲学科及び予科で学んでおり、夏休み期間に福岡教区に司牧などの実習に来ている。

会議では、各地区の動きについて、サマーキャンプ、アベイヤ司教を講師とした宣教司牧方針に関する地区信徒研修会、青年の集い、地区宣教司牧評議会の開催などが報告された。次に、教区委員会の活動について、聖書の出前講座、シノドス実践の分かち合い、青少年センター「カタラント」の開所、ベトナム人青年大会、「袴田事件」福岡事件の学習会、広報活動に対するアンケート結果などが紹介された。また、7月14日（日）に始まった福岡教区創立100周年事業に関して、

「100周年の祈り」やポスターが紹介された。審議事項としては、司祭が更に減少し、特定の小教区でミサが出来なくなる場合を想定した「集會祭儀」の司会者の養成について意見交換を行った。司祭不在時の集會祭儀は教会が定めている儀式で、司会者は教会の奉仕者として他の教区では既に活動しており、共通理解の下で準備を進めていくことを確認した。今後の予定として、11月4日に旧カトリック神学院で行う青年大会の報告が行われた。ベトナム、ミャンマー、韓国、フィリピン、日本など、国籍を制限せずに参加を呼び掛ける初めての青年大会であり、韓国の仁川教区からも青年と担当司祭が参加する。

最後に司祭から、地区の宣教司牧評議会が教区と一体となって活動するため、教区の5つの委員会に対応する組織や担当窓口を設けて欲しいとの要請があり、各地区で検討することになった。

## 福岡地区カトリック女性の会 聖モニカ祭



遺影に献香を行う司教

福岡地区カトリック女性の会の守護の聖人である聖モニカの祝日（8月27日）を記念し、感謝のミサと、この1年（昨年8月から今年の7月まで）に帰天した会員やその家族、司祭・修道者たちの永遠

の安息を願う追悼式が、8月31日（土）カテドラル大名町教会で執り行われた。ミサには主司式のヨゼフ・アベイヤ司教はじめ、共同司式に福岡地区の司祭・助祭たち10人、修道者や信徒とその家族など約200人が集った。説教で司祭は、ナインのやもめの息子を蘇らせた福音箇所（ヨハネ）に触れ、「苦しんでいる人に近づき、寄り添い、触れる（傷を癒す）ことが大切です」と説いた。また、初めて参加したクマル・プラピン神父（高宮教会主任、カプチン・フランシスコ会）は「聖モニカを黙想し、亡くなった方たちを偲ぶ厳かな雰囲気」が素晴らしいと感じたと感想を述べた。

社会医療法人 雪の聖母会

**聖マリア病院**  
〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422  
TEL.0942(35)3322 FAX.0942(34)3115

**聖マリアヘルスケアセンター**  
〒830-0047 福岡県久留米市津福本町448番5  
TEL.0942(35)5522 FAX.0942(34)3306

信仰や理念を共有できる医師、看護師の皆さん  
一緒に働いてみませんか

URL: <http://www.st-mary-med.or.jp/>

主日の福音書の解説は、司祭たちによって書かれたものがほとんどで、ブラザー（修道士）によるものは、あまり多くはありません。少し異なる視点の主日の福音メッセージを見つけてみませんか。

サンパウロ社発行  
税込価格1870円

☆みことばの「種」を探して  
— 御父の愛にふれる —

井手口満（著）

税込価格1430円

人（に）寄り添い、共に笑い働き、歩み続ける著者が出会った、キリストの続きを生きたる現代の預言者たちの「言づて」です。

ドン・ボスコ社発行  
税込価格1430円

☆預言者の言づて〜かがんで聴いてそっと生きたら

古巣 馨（著）

BOOK 読は専科

福岡教区のアプリができました。スマートフォンで教区情報を簡単に得ることができます。詳細は教区ホームページでご確認ください。

年間目標 互いに支え合う 交わりの教会となる

福岡教区信徒使徒職協議会 解散のお知らせ

福岡教区信徒使徒職協議会は、2024年8月25日、53年間の教区信徒使徒職活動に終止符を打つことになりました。詳細は11月号にてご報告をさせていただきます。感謝のうちに。

福岡教区信徒使徒職協議会 会長 濱崎公夫

福岡教区の殉教者を偲んで

ディエゴ加賀山隼人殉教記念ミサ

[日時] 10月14日(月・祝) 10時～ [場所] カトリック小倉教会 [ミサ] 主司式 ヨゼフ・アベイヤ司教 (福岡教区長) [問合せ先] ☎093・921・0093 (小倉教会)

八代殉教祭ミサ

[日時] 11月3日(日) 14時～ [場所] キリシタン殉教者列福記念公園 [ミサ] 主司式 ヨゼフ・アベイヤ司教 (福岡教区長) [問合せ先] ☎0965・32・4065 (八代教会)

不動山殉教者祈念ミサ

[日時] 11月10日(日) 14時～ [場所] カトリック佐賀教会 [ミサ] 主司式 ヨゼフ・アベイヤ司教 (福岡教区長) [問合せ先] ☎0952・23・4754 (佐賀教会)

典礼聖歌研修会

[日時] 10月13日(日) 14時～16時 [場所] カトリック笹丘教会 [内容] 葬儀ミサ [講師] 深堀純氏 (大名町教会) [問合せ先] ☎092・541・3730 (松山) ※典礼聖歌集をご持参ください。

福岡教区社会福音化委員会 正義と平和・人権部門主催 誰もが平和を求めています

[日時] 10月19日(土) 13時半～15時半 [場所] カテドラル大名町教会 1階講堂 [講師] 松浦悟郎司教 (名古屋教区長) [問合せ先] ☎090・9583・2806 (高瀬)

福岡教区和田墓地一般清掃

年々参加者が少なくなっております。皆さまのご協力のほどよろしくお願いたします。 [日時] 10月20日(日) 9時～ [ミサ] (※清掃後) 11時頃～ [場所] 福岡教区和田墓地 (福岡市南区和田4-15) [問合せ先] ☎080・2771・6544 豊嶋

第50回 CLC九州大会 ～希望に锚(いかり)をおろして～

[日時] 11月9日(土) 9時～10日(日) 16時 [場所] カトリック新田原教会テレジア館 [教会助言者] 中井 淳 神父 (イエズス会 日本CLC EA 補佐) [問合せ先] ☎0930・22・4493 (追立 泰治) ※分ち合い(霊的対話)に関心がある方、CLCに興味のある方など、どなたでもご参加ください。 ※詳細・申し込みは右記QRコードからご確認ください。

召命を共に祈る会

福岡地区 10月15日(火) 13時30分～ 大名町教会 [ロザリオと分かち合い] 担当: O.ベルナルド神父 (古賀教会主任) [問合せ先] ☎090・6422・2257 山口 北九州地区 10月12日(土) 14時～ 小倉教会 [ミサ] 谷口尚志神父 (水巻・直方教会主任) 徐 仁徳神父 (若松・戸畑教会主任) [問合せ先] ☎0949・24・9905 藤井 熊本地区 10月17日(木) 9時30分～ 健軍教会 [ミサ] 中村信哉神父 (健軍教会主任) [問合せ先] ☎096・369・8896 松上

各種団体の定例会

詳細につきましては、福岡教区ホームページ「教区報10月号」、または右記QRコードからご確認ください。

福岡教区広報室アドレス https://fukuoka.catholic.jp E-mail:cdf-kouhou@nifty.com

案内板 会合と催し

10月のこよみ

福岡教区青年大会

【日時】 11月4日(月・振休) 10時～16時 【場所】 旧福岡カトリック神学院 (福岡市城南区松山1-1-1) 【対象】 すべての青年 (国籍問わず) ※15時からのミサはどなたでも参加できます。 【参加費】 無料 【申込み】 右記QRコードから各自でお申し込みください。 【問合せ先】 ☎0942・72・3256 (小郡教会 田中重治神父)



真命山諸宗教対話センター - 祈りの集い -

年間テーマ: 聖性への招き 日 時: 10月10日(木) 10時～15時 内容: 平和を実現する人々は、幸いである 指導者: Sr.マリア・デ・ジョルジ(マリア布教修道女会) 次回: 11月14日(木) 内容: 義のために迫害される人々は、幸いである 指導者: C.クラウディオ神父(聖ザベリオ宣教会) 問い合わせ先: 真命山諸宗教対話センター ☎0968・85・3100 FAX 0968・85・3186 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7 E-mail shinmeizan@gmail.com ☆個人またはグループでの黙想会、研修会も歓迎いたします(要予約)

- 1日(火) 聖テレジア(幼きイエスの)おとめ教会博士 3日(木) 常任司教委員会(東京) 司祭生涯養成委員会(東京) 4日(金) 聖フランシスコ(アシジ)修道者 6日(日) 年間第27主日 新田原教会堅信式(5日～) +イ・スンヒョン(2018年 水巻教会) 7日(月) ロザリオの聖母 朝禱会 13日(日) 年間第28主日 唐津教会堅信式 14日(月) 加賀山隼人殉教記念ミサ 16日(火) 福岡教区幼児教育連盟 17日(木) +ドミニコ田川清美(2021年 福岡教区司祭) 18日(金) 聖ルカ福音記者 福岡地区女性の会 黙想会 19日(土) 松浦悟郎司教(名古屋教区長)講演会(大名町教会) 20日(日) 年間第29主日 世界宣教の日(献金) 今村教会司牧訪問 教区100周年委員会会議 教区司祭評議会 22日(火) 長崎教会管区 司教・司教総代理・事務局長会議 (熊本～24日) 24日(木) +洗礼者ヨハネ深堀勝人(2023年 福岡教区司祭) 27日(日) 年間第30主日 本郷教会司牧訪問 ベトナム語の共同体のミサ(大名町教会) 28日(月) 聖シモン・聖ユダ使徒 【11月】 1日(金) 諸聖人 2日(土) 死者の日 3日(日) 年間第30主日 八代殉教祭 4日(月) 教区青年大会 ■ゴシックは司教日程

※福岡教区で奉仕された司祭の帰天日は右記 QRコード、または教区ホームページのカレンダーでご確認ください。

集いの詳細は、各問合せ先にお尋ねください。

- 美野島司牧センター ☎092・753・6765 角田 事と衣類 毎週火曜日10時 第1・第3金曜日 調理 14時 夜回り 20時 路上からアパートに入居した方を訪問 第3土曜日14時 [問合せ先] ☎092・431・1
- 大濠カトリック会館・宣教養成センター ☎092・753・6765 角田 第1・第3水曜日10時 [問合せ先] ☎092・753・6765 角田 第4木曜日10時 [問合せ先] ☎092・753・6765 大濠カトリック会館 宣教養成委員会「黙想と祈りの集い」テゼの歌と共に [問合せ先] ☎092・753・6765 大濠カトリック会館

CHUNG SINH “KHÔNG CÓ NGHỈ HÈ” Chung sinh Giuse Võ Tá Phụng (Viet Nam)

Hoa Phụng rực nở trên sân trường, tiếng ve kêu vang vọng khắp đó đây báo hiệu một mùa hè nữa lại đến. Kỳ nghỉ hè là một khoảng thời gian được chờ đợi suốt cả năm, không chỉ là dịp để tạm gác mọi công việc học tập mà còn là dịp để khám phá những điều thú vị qua thế giới xung quanh, cũng như tạo ra những kỉ niệm đáng nhớ. Các hoạt động trong kỳ nghỉ hè rất đa dạng và phong phú. Đối với nhiều người, những chuyến du lịch là lựa chọn hàng đầu. Khi được đặt chân đến những vùng đất mới, ta có cơ hội để khám phá biết bao nhiêu điều mới lạ mà cuộc sống thường nhật ta không có cơ hội để khám phá. Đôi khi, kỳ nghỉ hè còn là dịp để chúng ta có thể thăm hỏi người thân và bạn bè, vì những hoàn cảnh khác nhau mà ta không thể gặp gỡ họ thường xuyên được. Những chuyến đi chung, cuộc hội ngộ bên những chén men nồng không chỉ tạo ra niềm vui mà còn thắt chặt mối quan hệ cũng như tạo nên những kỉ niệm khó quên.



ミサの奉仕をするフォン神学生(右)

Nhưng đối với chúng sinh, là những mục tử trong tương lai, kỳ nghỉ hè không chỉ để nghỉ ngơi thư giãn mà còn là khoảng thời gian vô cùng quý báu và quan trọng để thực hiện các hoạt động mục vụ nhằm thể hiện sự nhiệt huyết trong ơn gọi thánh hiến cũng như để có cho mình những kinh nghiệm quý giá cho đời linh mục sau này của chính bản thân. Bản thân là chúng sinh của giáo phận Fukuoka nhưng lại học ở quê nhà, ngoài những kiến thức phải tiếp thu trong chủng viện thì việc trau dồi thêm tiếng Nhật là vô cùng quan trọng. Đó là phương tiện để giúp bản thân có thể mục vụ cho người bản xứ trong giáo phận một cách tốt nhất và cũng là cơ hội để giao lưu văn hóa với người dân địa phương. Ý thức được sự cần thiết của ngôn ngữ, các quý Cha trong ban đào tạo của giáo phận đã tạo điều kiện cho bản thân được trau dồi tiếng Nhật trong những khoảng thời gian rảnh rỗi với giáo phận. Đây là điều quý giá đối với một chúng sinh suốt cả năm không có không - thời gian tiếp xúc với tiếng Nhật.

Trong Tông huấn “Christus Vivit - Chúa Kitô Đang Sống” của Đức Thánh Cha Phanxicô có nói rằng “... chúng ta không thể chỉ nói rằng người trẻ là tương lai của thế giới. Họ là hiện tại của thế giới; họ góp phần làm cho thế giới được phong phú” (số 64). Thật vậy, giới trẻ là tương lai của Giáo Hội và xã hội. Qua những lần tham gia trại hè tại các giáo xứ, và đặc biệt là đại hội giới trẻ Giáo phận được tổ chức hằng năm (FYCC) bản thân thấy được sự trẻ trung và đầy nhiệt huyết của giới trẻ trong giáo phận. Mặc dù còn số tham gia vẫn còn khiêm tốn nhưng trên hết vẫn là sự liên đới giữa các bạn trẻ với nhau trong giáo phận và cũng là cơ hội để nâng đỡ các em phần nào về đời sống đức tin. Ngoài việc giao lưu và tiếp xúc với các bạn trẻ, trại hè còn là nơi để bản thân làm quen và xây dựng các mối tương quan với giáo dân tại các giáo xứ mà mình có cơ hội được gặp gỡ. Tuy nhiên, càng dẫn thân trên con đường dâng hiến, bản thân càng thấy mình còn nhiều thiếu sót và yếu đuối nếu không muốn nói là hèn kém và bất toàn. Mong rằng trong những lần cầu nguyện, quý ông bà và anh chị em luôn nhớ đến và cầu nguyện thêm cho con để con vững bước trên con đường mà “không mấy người đi”.

日本語訳は 右記から→

編集後記

福岡教区で行われた講演会「つながる喜び」に、「今春の教区報(3月号)の『時書』より」を紹介されました。教区報がただの紙くずでなく、少しでも皆様の役に立つものとなれば幸いです。(W)

地区の山鹿教会から3人が参加されました。また、久留米教会で行われた山頭原太郎神父(福岡教区司祭)100歳誕生日記念感謝ミサでは、「教区報で知ったの。知らなかった人も多く、教えてあげたら喜んで参加されていたわよ」との声が。こちらは4面の司教日程から記憶していたとの事でした。講演会で児島氏は、「話し手の言葉は、聞き手に届かないればなんの意味もない、それはまさに買い手の付かない商品が、ただのがらくたにすぎないようなものである。(菅野泰蔵『カウンスリング解体新書』より)」を紹介されました。教区報がただの紙くずでなく、少しでも皆様の役に立つものとなれば幸いです。(W)

福岡教区セクハラ対応窓口 セクハラを受けたら、見かけたら、ご相談ください。ひとりで悩まず、早めに相談 セクシュアル・ハラスメント相談窓口 電話 080-2694-4182 受付時間 月～金(祝日を除く) 10:00～12:00 13:00～16:00